

慢性疾患を有する児童生徒実態調査中間結果

(昭和32年11月30日現在)

項 目	学校別	患者数
発見	小学校	706
	中々学校	317
	未就高計	56
の	小学校	188
	中々学校	81
	未就高計	32
動	小学校	16
	中々学校	317
	未就高計	30
機	小学校	24
	中々学校	1
	未就高計	55
有	小学校	958
	中々学校	396
	未就高計	25
疾	小学校	79
	中々学校	1,458
	未就高計	41
病	小学校	16
	中々学校	8
	未就高計	1
者	小学校	66
	中々学校	999
	未就高計	412
数	小学校	33
	中々学校	80
	未就高計	1,524
療	小学校	626
	中々学校	248
	未就高計	22
養	小学校	40
	中々学校	936
	未就高計	81
状	小学校	69
	中々学校	17
	未就高計	12
況	小学校	179
	中々学校	107
	未就高計	26
医	小学校	0
	中々学校	12
	未就高計	145
場	小学校	254
	中々学校	65
	未就高計	9
合	小学校	12
	中々学校	340
	未就高計	164
入	小学校	101
	中々学校	8
	未就高計	21
所	小学校	294
	中々学校	108
	未就高計	35
兼	小学校	4
	中々学校	9
	未就高計	156
育	小学校	156
	中々学校	4
	未就高計	9
施	小学校	156
	中々学校	4
	未就高計	9
設	小学校	156
	中々学校	4
	未就高計	9
が	小学校	156
	中々学校	4
	未就高計	9
出	小学校	156
	中々学校	4
	未就高計	9
来	小学校	156
	中々学校	4
	未就高計	9
た	小学校	156
	中々学校	4
	未就高計	9

福島市立福島第三中学校 阿部セツ
 郡山市立郡山第一中学校 鈴木礼子
 郡山市立郡山第三中学校 齋藤倫子
 須賀川市西袋中学校 鈴木クニ子
 磐城市立小名浜第一中学校 小野孝子
 健康優良校

東白川郡棚倉町立棚倉小学校
 河沼郡湯川村立笈川小学校
 ※白河市立白河第三小学校
 ※安達郡安達村立浜川小学校
 福島市立福島第三中学校
 伊達郡川俣町立川俣中学校
 相馬市立磯部中学校
 なお、吾妻正邦君は全国十位の中に選抜された。

三 結核性疾患を有する児童生徒実態調査

結核は児童生徒の慢性疾患中、患者の将来並びに周囲に最も大きな影響を与えるものであり、疾病による長期欠席の主な原因となっている。これについては早期に適切な措置を行う必要がある。先ず県内全児童生徒に対し実態調査を行った。中間結果として(主に学校定期身検査による有所見者数)左の数値を得た。

この対策の一つとして、治療と学習を併せて行う養護学級を県立大野病院内に設置し、長期の慢性疾患に悩む子供達を収容することとなった。開設は昭和三十三年四月の予定である。

四 学校伝染病予防対策

インフルエンザウイルス東京A57型と称する新しい菌によるインフルエンザが、全国的流行の一環として六月中旬から十二月まで県内各地に流行し、学校では非常な勢で集団発生を見た。臨時休業や学級閉鎖による授業時間の損失は報告あったもののみでも約四、四〇〇時間にのぼっている。

この予防については、たびたび通ちよう等をもって指導し学校においても概ね適切な措置がとられたと思うが、顕著な効果は見られなかった。臨時休業や学級閉鎖をする場合の最も効果的な時期や日数については確実な資料がない状況なので現在設置学校につき調査を行っている。

その他はとくに重篤な疾病の発生はなかった。

昭和32年度学校伝染病発生報告数

種 別	学校別						計
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	盲学校	ろう学校	
インフルエンザ	3	158	57		1	2	221
麻疹		1					1
流行性耳下腺炎		2					2
赤痢	5				5	1	11
疑似日本脳炎	1						1
デフテリア	4	2					6
猩紅熱	1					1	2

註 インフルエンザは臨時休業又は学級閉鎖を行った学校のみ麻疹、流行性耳下腺炎は集団発生した学校のみをあげた。